

## 9 公益総合研究センターの活動

### I. 公益ビジネス研究プロジェクト

#### 1. 受託研究

##### (1) 羽黒地域手向地区における「歴史的風致維持向上計画策定事業」に係る調査研究

研究者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

研究期間：平成 24 年 5 月 11 日～平成 25 年 3 月 31 日

契約金額：1,200,000 円（税込み）

研究目的及び概要：

鶴岡市羽黒地域手向地区において、平成 22～23 年度に実施した街並み景観調査やアンケート調査の結果をふまえて具体的な修景整備計画を作成・提案し、実現に向けての方策を検討した。

成果：

作成した修景整備計画をもとに、住民説明会を実施し、実現に向けた方策を探る予定である。

##### (2) 鶴岡市沿岸地域における地域活性化を図るための基礎研究調査

実施者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

実施期間：平成 24 年 7 月 2 日～平成 25 年 3 月 31 日

契約金額：210,000 円（税込み）

事業目的及び概要：

水産物など豊かな地域資源を活用した漁村地域の振興および都市と漁村地域の交流の促進を図るために、平成 23 年度に実施したアンケート調査の結果をふまえ、冬期間に沿岸地域を訪ねてもらうための具体的な着地型観光プランを作成し、提案した。

成果：

交通の不便な冬季間は沿岸地域の集落が単独で集客を図るのは難しいとの分析から、大山地区で行われる「新酒・酒蔵まつり」と由良地区の民宿での宿泊をセットにした滞在体験プログラムを企画した。今後、大手の旅行代理店との連携などの可能性を探る予定である。

#### 2. 公開シンポジウム等の開催

##### (1) 連続講座「内川学 4『内川から まちが変わる～生まれ変わる 旧イチローチ商店～』

日時：平成 25 年 2 月 2 日（土）13：30～16：30

場所：鶴岡まちなかキネマ キネマ 3

共催：イチローヂ・まち・川再生プロジェクト協議会、鶴岡舟番所  
（平成 24 年度 新しい公共の場づくりのためのモデル事業）

<内容>

基調講演：「内川からはじまるまちづくり」

◎高谷 時彦 教授

第 1 部：内川学 4

「通り丁の街並と人びとの暮らし」

◎國井 美保 氏

「内川流域の植物」

◎水野 重紀 氏（水野野生生物調査室 主宰）

第 2 部：イチローヂ・まち・かわプロジェクト報告

「新しい枠組みでの地域の活動舞台化と PR」

◎川原 晋 氏（首都大学東京 准教授）

「生まれる であい よろこび つなごう」

◎橋本 匡史 氏（NPO 法人 公益のふるさと創り鶴岡）

◎三浦 雄大 氏（IDEHA Creation）

「プロジェクトで見えてきたもの」

◎黒羽根 洋司 氏（歴史的建造物保存委員会、イチローヂ・まち・かわプロジェクト 企画統括）

会場セッション：市民デザインワークショップ

進行

◎橋本 匡史 氏（NPO 法人 公益のふるさと創り鶴岡）

## II. ニュージーランド研究プロジェクト

### 1. 公開シンポジウムの開催

(1) ニュージーランド研究所創立 10 周年記念シンポジウム

日時：平成 24 年 6 月 23 日（土）13：30～16：00

場所：本学酒田キャンパス 教育研究棟 301 教室（大教室）

<内容>

基調講演：『『小さな大国』ニュージーランドの教えるものー日本はニュージーランドに何を学ぶかー』

◎小松 隆二 氏（本学元学長・名誉教授）

「震災とエネルギー問題」

◎ステファン・コーベット（ニュージーランド大使館一等書記官）

「非核政策」

◎高橋 康昌 氏（群馬大学名誉教授）

「マオリの文化的資源」

◎澤田 真一 氏 (弘前大学准教授)

「行財政改革・大学改革」

◎水田 健輔 教授

(2) シンポジウム「東日本大震災・復興を考える」の開催

日時：平成 25 年 3 月 20 日 (水、祝日) 13:00~16:00

場所：本学酒田キャンパス 教育研究棟 301 教室 (大教室)

共催：早稲田大学現代政治経済研究所

後援：日本学術振興会

<内容>

基調講演：「東日本大震災後の地域・生活再建を支える「中核被災者」の役割と可能性」

◎柄谷 友香 氏 (名城大学准教授)

報告Ⅰ：「震災 2 年目の復興行政の現状 現地調査からみたその進みと遅れ」

◎松井 望 氏 (首都大学東京准教授)

報告Ⅱ：「ニュージーランド・カンタベリー地震の復興行政から学べること」

◎和田 明子 准教授

パネルディスカッション

◎稲継 裕昭 氏 (早稲田大学教授)、柄谷 友香 氏、松井 望 氏、和田 明子 准教授

2. 研究会の開催

(1) 第 33 回研究会

日時：平成 24 年 4 月 20 日 (金) 16:20~18:00

場所：本学酒田キャンパス 教育研究棟 共同研究室 E

報告者：和田 明子 准教授

テーマ：「ニュージーランドの 80 年代以降の公的部門改革が震災復興行政に与えた影響・成果」

(2) 第 34 回研究会

日時：平成 24 年 10 月 27 日 (土) 13:30~16:30

場所：京都キャンパスプラザ

報告者①：和田 明子 准教授

テーマ①：「カンタベリー地震の復興行政に対する公的部門改革の影響」

報告者②：山岡 道男 氏 (早稲田大学教授)

テーマ②：「3 人のヤングマオリ・リーダー」

報告者③：川本 明人 氏 (広島修道大学教授)

テーマ③：「ニュージーランドの銀行と通貨」

### 3. 著書の出版

日本ニュージーランド学会・東北公益文科大学ニュージーランド研究所編『小さな大  
国』ニュージーランドの教えるものー世界と日本を先導した南の理想郷ー』を、平成 24  
年 7 月に発行した。

### 4. 『ニュージーランド・ノート』第 15 号の編集

県内外の関係機関・団体、個人や資料請求者に送付するほか、本学講義などで活用し  
てきた。現在は Web での公開も含めて検討している。

### 5. ニュースレター「アオランギ」第 31 号の編集

上記『ニュージーランド・ノート』第 15 号とあわせた送付を検討している。

### 6. 酒田市図書館報『光丘』への連載記事の執筆

酒田市立中央図書館から、前年度に引き続き図書館報『光丘』への連載記事の執筆依  
頼があり、受託した。執筆者は次のとおりであった。

- ・第 141 号（2012 年 8 月 1 日）遠山 茂樹 教授
- ・第 142 号（2013 年 2 月 1 日）竹原 幸太 講師

### 7. 東北公益文科大学メディア・センター「ニュージーランド文庫」の充実への協力

本学のメディア・センター「ニュージーランド文庫」のさらなる充実のために、社会  
科学、人文科学を中心とした最新のニュージーランド文献、寄贈文献、その他資料等  
を選定し、メディア・センターに寄贈した。

### 8. その他の活動

和田 明子 准教授、武田 真理子 准教授、石原 俊彦 氏（関西学院大学大学院教授）  
による共同研究として、研究テーマ「ニュージーランド・カンタベリー地震の復興プロ  
セスの研究～NPM の影響を中心に」を平成 25 年度科学研究費助成事業（基盤研究(B))  
に申請している。

また、過年度同様、本学ニュージーランド短期留学プログラムの運営協力や、国内メ  
ディアへの取材協力をはじめ、学内外の様々な事業、研究活動への協力活動を実施した。

## Ⅲ. 庄内プロジェクト

### 1. アンケート調査の実施

平成 22 年度に実施した、庄内地域の 20 歳以上の住民 1,050 名を対象とする住民アン  
ケート調査や、平成 23 年度に実施した、庄内地域の若者を対象とするフォーカスグルー  
プインタビューの結果、庄内地域の次代を担う若者の人生設計におけるニーズ把握が、

地域の将来を決定づける重要な要因と関連することが明らかになった。また、若者の将来の展望や課題についての意識は、地域連携に取り組んでいく上での本学の位置づけや役割と密接に関わるものであるため、さらに詳細な調査研究が必要であると思料された。

以上の経過を踏まえ、本プロジェクトでは、庄内地域の将来を担う高校 2 年生の地域についてのイメージと、進学および就職に関する意識を調べるため、アンケート調査を実施した。有効回答者数は 2,753 名と、対象者の 93%以上から回答が得られ、また、学校や地域による偏りもほとんどなかった。

結果は、48 ページの「調査実施報告書」にまとめ、各高校をはじめとした関係者に配付・送付した。

## 2. 公開シンポジウムの開催

日時：平成 24 年 12 月 8 日（土）13：30～16：00

場所：本学酒田キャンパス 公益ホール 中研修室 1

後援：山形県、鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町、鶴岡青年会議所、酒田青年会議所、庄内中央青年会議所

<内容>

### 第Ⅰ部 アンケート調査報告

◎本学教授 照井 孫久

### 第Ⅱ部 シンポジウム

#### 1. 地元高校生の発表

「本校の地域と連携した取り組みの報告とこれからの関わり」

◎山形県立酒田光陵高等学校 小松 藍士・小松 恵太郎・松浦 里織奈・小林 唯

「“脱・ありきたりの旅” Part2～被災地と庄内を結ぶ“Win Win”な癒しツアー～」

◎山形県立鶴岡中央高等学校 五十嵐 彩・佐藤 佳代・太田 あかね・齋藤 麻友・

榎本 帆波・高橋 美奈実

#### 2. 本学学生の発表

「とび魚だしプロジェクト」

◎本学 4 年 石垣 博也

「Koeki Kids Project とそれを通して見た庄内」

◎本学 3 年 齋藤 陽香

#### 3. 地元若者の発表

「僕と庄内～“笑”内あふれる地域へ～」

◎「やさいの荘の家庭料理 菜あ」小野寺 紀允

#### 4. パネルディスカッション

「高校生から見た地域の魅力と課題～庄内どうでしょう～」

コーディネーター

◎本学講師 小関 久恵

コメンテーター

◎本学非常勤講師 西田 みづ恵

パネリスト

◎上記1～3の発表者

第Ⅲ部 総評

「高校生と地域の未来」

◎本学非常勤講師 西田 みづ恵

なお、このシンポジウムの内容は「報告書」にまとめ、各高校をはじめとした関係者に配付・送付した。

### 3. その他

上記のアンケート調査の実施および公開シンポジウムの開催においては、「平成 24 年度庄内開発協議会公益のふるさとづくり活動補助金」の交付を受けた。